

まだ、あまり知られてはいないかもしれないが、キャンパスがなく、授業はすべてオンラインという総合大学がある。アメリカに拠点をもつミネルバ大学である。学生はヨーロッパやアジアなど世界7都市の寮を4年間で移動し、現地の企業や団体と連携して課題解決型の体験学習にも取り組む。開学から8年あまりで、ハーバード大学より入りにくいといわれる難関に成長した。

この大学は、少人数型教育のオンライン化を徹底させることに挑戦している。大学設立の背景にあったのは、アメリカのエリート大学の現状に対する批判だった。今では、世界のエリートが入学を熱望し、合格率は2%未満である。アメリカのハーバード大学やスタンフォード大学などよりも難関と言われている。

オンラインの授業に参加する学生数が、それぞれ20人未満に限定され、常にリアルタイムの双方向型で行われている。学生たちは事前に課題を出されて資料を読み込み、授業は意見交換が主体になる。オンデマンド（録画配信）型授業は、一切行っていない。

アメリカのエリート大学では、高い学費のために出身階層が限定的になる。加えて、留学生率も決して高いわけではない。世界がこれだけグローバル化していながら、アメリカのエリート大学の学部教育は、意外なほどに同質的である。ミネルバ大学は、学生たちに真にグローバルで、多文化的な経験をさせ、そこから知的思考を深める習慣を身に付けさせていこうと考えた。

学費の低廉化と新しい教育法の全面展開、そして、実社会との連続的な関係形成と、真に多文化的な学びを同時に実現するために、キャンパスを持たないこととオンラインを徹底させること、少数精鋭の高度な教育を実現することを結び付けた。

キャンパスを持たないことは、大学の運営コストの大幅削減を可能にした。立派な校舎もなければ、スポーツ施設や図書館や食堂、サークル活動のための施設もない。大学としての投資は、オンライン上で最高レベルの学生の学びを実現することに集中させている。

我が家の娘は大学4年生となった。コロナ禍もあり、保護者として大学の構内に入ったのは2回しかない。先日、保護者対象のキャンパスツアーがあり、申し込んだ。1日に3回あった。抽選ということなので、3回すべてに申し込んだ。結果は、「残念外れました」だった。唯一、オルガンコンサートだけが「当選しました」だった。きれいなキャンパスの中に、素敵なチャペルがある。そこで、オルガンコンサートが開かれた。

大学の授業内容や方法も大切だが、キャンパスでの学生生活により得られるものが大きいと思っていた。ミネルバ大学では、7都市での寮生活が、その役割を果たすのかもしれない。いろいろなものが通用しなくなり、全く新たな発想が必要とされているのかもしれない。

娘は、まもなく大学を卒業し、社会に出る。コロナのために、ほぼ2年間は、滅多に入ることもなかったキャンパスである。それでも、たくさんの友人ができ、充実した学生生活を送ることができた。そんなキャンパスに感謝しながら、素敵なオルガンコンサートに参加させていただいた。